

# アシナガバチと共生しよう！

## アシナガバチの見分け方

アシナガバチは基本的におとなしいハチであり、巣を刺激しなければ人を攻撃することはありません。自然界では、農作物や庭木に付く毛虫やイモムシを食べたり、花粉を媒介するなど、益虫として役立っています。  
 体長は2cm前後、体色は黄色と黒色で、長めの足をだらりと下げて飛びます。  
 巣は、家の軒先、植え込みなどによく見られ、レンコンを切って御椀型にしたような形でぶら下がっています。  
 4月から5月に女王バチが単独で巣をつくり始め、6月より働きバチが羽化して共同生活をします。その後、巣は急速に大きくなり、ハチの数も増え、8月から9月に最大となります。



**この時期に巣を刺激すると刺されることが多く、注意が必要です。**

交尾は9月から10月ごろに、巣の近くの壁、石垣などの陽だまりで多数の雄バチと数匹の雌バチが群がって行われます。このときは、人を攻撃することはありません。交尾が終わると雄は死に、雌のみが気温の低下(11月ごろ)とともに、木の割れ目や石垣の隙間などで越冬します。巣の利用は1年限りで、翌年再利用されることはありません。

## 巣を作られないようにするには

- ☆4月ごろから定期的に目視でチェックしてみましょう。  
早期の巣であれば駆除も簡単です。
- ☆庭木などは定期的に剪定し、風通しをよくしましょう。  
生い茂った場所に巣をつくります。
- ☆庭には置きっぱなしのものをなくして、整理整頓しておきましょう。  
使用頻度の少ないものや、人の出入りの少ない場所に巣をつくります。
- ☆通気口には目の細かいネットを取り付け、亀裂、隙間などは補修しておきましょう。  
ハチの進入路となり、屋根裏や壁の間に巣をつくります。



営巣初期

## 刺されないようにするには

- ★巣を見つけたら、近づかないようにしましょう。
- ★巣に石を投げつけたり、棒で突いたりしてはいけません。
- ★巣のある幹や木を叩いたり、ゆすったりしてはいけません。
- ★巣の下や近くで騒がないようにしましょう。
- ★ジュースの空き缶を放置しないようにしましょう(ハチは甘い匂いに寄ってきます)。
- ★山に入るときは帽子を着用し、できるだけ白い服装にしましょう。



営巣後期

## 刺されたときの処置方法

できるだけ早く、流水で洗い流します。  
 痛みが酷いときは冷やし、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗ってください。  
**発熱や震え、目がかすむなどの症状が出た場合は、速やかに医師の診断を受けてください。**

## アナフィラキシーショックについて

ハチの毒はタンパク質でできているため、刺された経験のある人はまれに毒に対する抗体をもっていることがあります。その場合、次に刺された時にはショック(じんましん・息切れ・呼吸困難等)を起こし、死に至ることさえあります。これをアナフィラキシーショックと言います。  
 一度刺されたことのある人やショックを起こしたことがある人は、抗体の有無について病院で検査することができます。  
**※ハチアレルギー体質の人は巣の駆除は避けてください。**



## アシナガバチの巣ができてしまったら

基本的におとなしいハチですので、巣を刺激しなければ刺されることはありません。生活に支障のない場所に巣ができた場合は、冬になりハチが出入りしなくなるまで、そっと見守ってあげるようにしてください。

## それでも気になる場合は・・・

**富士市ではアシナガバチの巣の駆除は行っていません。**

巣の処置は、巣ができた場所の管理者が行ってください。  
 会社や商店、営業所の場合は専門の駆除業者(有料)に依頼してください。  
 個人宅の巣を駆除する場合はハチの防護服の貸し出しを行っております。  
 借りる場合は以下の借用条件になります。

- ・富士市民であり、自宅にできた巣を取り除くために使用すること。
- ・巣の場所が人の生活に干渉する位置にある場合に使用すること。
- ・駆除作業に伴う事故・けが・破損等については借用者が責務を負うこと。
- ・防護服をハチの駆除以外の目的で使用、転貸、営利目的で使用しないこと。
- ・スズメバチの駆除を目的としないこと。



## アシナガバチの巣の駆除方法



アシナガバチは殺虫剤に弱いので、比較的簡単に駆除できます。  
 ご自分で駆除する場合は、刺されないよう必ずハチ防護服などを着用して行ってください。  
 殺虫剤はご自身で用意してください。

### 駆除作業

- 1.夜間に周囲に明かりがないことを確認してください。  
暗闇ではハチの活動が鈍るので、安全に作業することができます。
- 2.風上に立ち、スプレー式殺虫剤を巣の斜め下または横から吹き付けます。  
巣の真下から噴霧すると、上からハチが降ってきて危険です。
- 3.巣の表面にいるハチが一斉に飛びたったり、羽音に恐怖を感じても、作業を中断しないで、一定時間噴霧しつづけます。  
スプレーの使用は説明書きに従ってください。
- 4.翌朝、明るくなってから、ハチが巣にいなくなったのを確認し、棒などで巣を落としてください。巣は燃えるゴミとして処分できます。  
巣や死んだハチは素手で触らず、ホウキ等で集めて袋にいれましょう。  
2,3日の間は働きバチが巣のあった場所を飛ぶことがあります。



富士市役所 市民安全課  
0545-55-2750(直通)